

概念分析を基にした関節リウマチ患者のセルフマネジメント尺度の開発とその活用可能性の検討

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2018-03-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 浅井, 美千代 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003346

論文内容の要約

学 生 番 号	3215001
氏 名	浅井 美千代

主 査	植木 純
副 査	湯浅 美千代
副 査	青木 きよ子

学 位 論 文 名	概念分析を基にした関節リウマチ患者のセルフマネジメント尺度の開発とその活用可能性の検討
訳 タ イ ト ル	Development of a Self-management Scale for Patients with Rheumatoid Arthritis Based on Concept Analysis and Verification of Its Usability
共 著 者	
論文内容の要約 (1,000 字～1,500 字)	
<p>【目的】 概念分析により「慢性疾患患者のセルフマネジメント」の構成概念を明らかにし、その結果を基に関節リウマチ患者のセルフマネジメント実践状況を測定する尺度を開発すること、その活用可能性を検討することを目的とする。</p> <p>【方法】 ①我が国における「慢性疾患患者のセルフマネジメント」の概念分析を Walker and Avant の方法を参考に行った。②①で明らかにしたセルフマネジメントの構成概念に基づき、関節リウマチ患者のセルフマネジメントの実践状況を測定する尺度原案を作成し、信頼性と妥当性を検討した。③開発した関節リウマチ患者のセルフマネジメント尺度得点による対象者の特徴を明らかにし、尺度の活用可能性を検討した。</p> <p>【結果・考察】 概念分析により「慢性疾患患者のセルフマネジメント」の構成概念として、【慢性疾患と共に生きるために生じた課題に対処する活動】【課題への対処法を洗練するプロセス】【医療者とのパートナーシップに基づく協働】の3つが導き出された。これらを下位尺度とした関節リウマチ患者のセルフマネジメント実践状況を測定する質問 48 項目を作成し、149 名を対象に分析した。探索的因子分析では、最終的に 23 項目となり、＜関節リウマチと共に生きる方法を洗練する＞8 項目、＜生活の充実に向け工夫する＞5 項目、＜関節リウマチの養生法を実践する＞4 項目、＜身近な支援を活用する＞3 項目、＜身体状態をモニタリングする＞3 項目の 5 因子構造となった。確証的因子分析におけるモデル適合度指標は GFI=0.804、AGFI=0.759、CFI=0.861、RMSEA=0.078 であった。尺度全体の Cronbach's α 係数は 0.887、各因子は $0.714 \leq \alpha \leq 0.884$ で、外的基準尺度とも有意な関連性が認められた。尺度得点の高得点群と低得点群との 2 群間において比較検討した結果、生物学的製剤の使用経験、疾患・症状管理の必要性の自覚、自己効力感、心理的支援、QOL などに有意差があり、関節リウマチの病状に差はみられなかった。</p> <p>【結論】 関節リウマチ患者のセルフマネジメント尺度は、23 項目 5 因子構造となり、尺度の妥当性と信頼性は概ね確保された。本尺度の下位尺度の 5 因子は、関節リウマチ患者が QOL を維持しつつ、病気の悪化を予防するためのセルフマネジメント内容を示しており、患者がセルフマネジメント実践状況の自己評価に活用可能である。また、本尺度は、治療法と心理要因、身近な支援の活用に対する弁別力があり、そのような支援の必要な対象の識別に活用できるツールであるといえた。</p>	